

# 東京都立 多摩総合医療センター

## 地域医療連携の課題について

国分寺市医師会会長 中島 米治郎

旧都立府中病院から都立多摩総合医療センターに改称して新病院となってから今年で3年目をむかえます。この間、地域医療連携では大変お世話になりました。旧病院の時代より、日常診療ならびに時間外診療においても、国分寺市医師会会員は、貴病院を利用することは大変多かったのですが、実際に、地域別受診統計を見ると、国分寺市民の都立多摩総合医療センターへの受診率は、地元府中市に次いで多くなっております。これは、東京都の策定した医療圏を超えての受診となります。特に、国分寺市は、人口11万人強ですが、大きな病院はなく、重症者や集学的医療を要するとき、また緊急を要するときには、手のそろった貴院にお世話になっておりました。新病院では、小児科は都立小児総合医療センターとなり、小児科診療は新生児の救急から小児がんまで、そちらに特化しましたが、多くは依然都立多摩総合医療センターに受診しております。当医師会会員の多くが医療連携医師として登録されておりますので、連携をよろしく願いいたします。

昨年3月の震災以降、最新の免震構造を備えた都立多摩総合医療センターの地域での役割はますます重要となっております。近隣に立川断層があり、また首都圏直下型大地震についても、貞観の大地震以降千年に一度と言われた大地震の後には数年から十年数年の間にはかなりの確率で発生が予想されている現在、地震を含む災害時の基幹病院になることは必定であります。災害時医療の基幹病院としての取り組みについて、今後も地域との連携を図りながら、東京都多摩地区での災害時医療対策を構築願いたく期待は大きいです。

つぎに今後の国分寺市の人口推計を考えると、ここ4-5年はわずかに人口の増加がありますが、高齢人口の比率は増加し、平成38年には、75歳以上の後期高齢者が13%を占めるようになり、疾病構造が変化していくことが予想されます。今後の疾病構造の変化と在宅医療への対策も必要と考えます。それに関して、介護保険にかかわる主治医意見書の作成があります。介護保険認定審査会において、医師の意見を反映させ、円滑な審査のためにも、多忙の中ではございますが、意見書の作成によりご協力をお願いいたします。また、診療所との連携が必要となる分野と考えております。

都立多摩総合医療センターが、府中、国立、国分寺市という立地条件の中で、多摩地区の中核病院として存在するには、今後周辺の調剤薬局の整備が必要と考えます。開院当初は、医薬分業の考えで時間外診療もそのようにしてはいたはずですが、現在は休日夜間においては院内処方で行っていると聞きしています。これは便利な面もありますが、今後の東京都における医療体制の中での調剤薬局の在り方を考えてみる必要があるのではないかと存じます。

今後とも、円滑な病診連携が図れるよう医師会も努力いたしますので、なにとぞよろしくお願いいたします。



## お知らせ 緩和ケア外来の予約について

### A《緩和ケア外来》

院外から受診される方は、原則、主治医からの診療情報提供書及び画像データの持参をお願いいたします。院内の患者さんは、電子カルテでの他科依頼書が必要になります。

#### (1) 外来実施日

毎週水曜 13:00～16:00 (一時間単位で3つの枠を設けています)

#### (2) 予約方法

院内の患者さん：主治医から他科依頼紹介の形で予約を取ります。

院外の患者さん：予約センター (TEL 042-323-9200) に電話して下さい。

#### (3) 診療・相談内容

①がんなどの病気のために、痛み、息苦しさ、吐き気などつらい身体症状で困っていらっしゃる方のための薬剤調整やアドバイスをを行います。

②心理的なサポートや生活上の心配についても相談ができます。

(場合によっては、がん相談支援センターへの紹介を行います)

#### (4) 費用

保険診療になります。(初診料、診療情報提供料、処方料、投薬料等)

### B《緩和ケア・セカンドオピニオン外来 (院外向け)》

#### (1) 外来実施日

毎週水曜 16:00～17:00 (一時間単位で1枠よりスタート)

#### (2) 予約方法

予約センター (TEL 042-323-9200) に電話して下さい。

#### (3) 診療・相談内容

①緩和ケアを勧められたが、もっと具体的な内容を知りたい。

②緩和ケアしかないと言われたが、納得できない。

③どういうタイミングで緩和ケアにギアチェンジしたらいいのか、知りたい。

上記のような患者さん・ご家族のための相談外来。

主治医と相談・了承の上、紹介状・画像資料などの持参を依頼する。

#### (4) 費用

患者さんご本人は、保険診療。(初診料、診療情報提供料等)

ただし、入院中の患者さんもしくは、ご家族は実費診療。

## 都立多摩総合医療センター 人事異動

#### 【転出】平成24年1月1日付

脳神経内科医員 飛澤 晋介

#### 【退職】平成23年12月31日付

麻酔科医員 小暮 泰大

耳鼻咽喉科 (非常勤) 大貫 裕香

リウマチ膠原病科 (非常勤) 香宗我部 滋

産婦人科医員 木寺 信之

眼科 (非常勤) 堀 寛爾

#### 平成24年1月31日付

産婦人科医員 大橋 まどか

皮膚科 (非常勤) 中州 美穂

外来担当医のみ掲載しております。





## 歯性顎炎により縦隔炎を発症した1例

歯科口腔外科 小林 大輔

【症 例】 59歳 男性

【主 訴】 左側頬部の腫脹・疼痛および呼吸苦

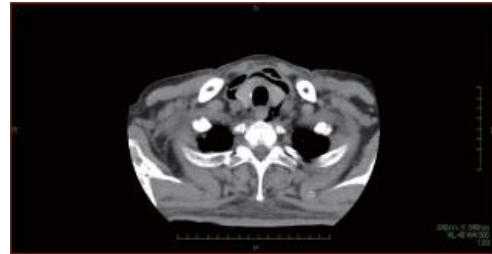
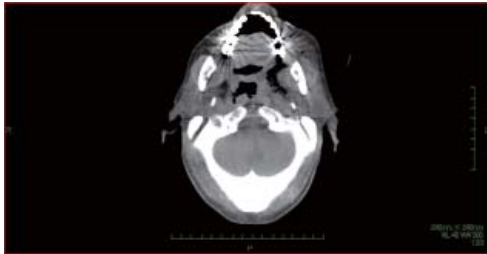
【現病歴】 初診日より約1週間前より左側頬部の腫脹と疼痛を自覚するようになった。2日前より呼吸苦を自覚し、その後、左側下顎部の疼痛が増強したため、深夜に当院救命センター受診した。

【既往歴】 糖尿病、慢性腎不全（1997年より人工透析導入）、高血圧症、白内障、閉塞性動脈硬化症  
初診時全身所見：血圧137/73mmHg、心拍数130 /分、呼吸回数 18 /分、体温37.8℃ SpO2 85%  
血液検査所見：WBC 24200、CRP 43.12mg/dl

【局所所見】 左側頬部から側頭部にかけての腫脹を認めるも、発赤は認めなかった。頸部は両側に腫脹を認め、圧迫による捻髪音を認めた。

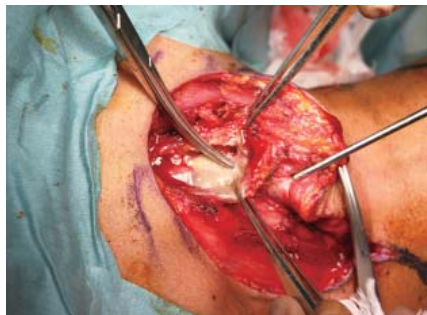
口腔内所見は開口約1横指、口底の著明な腫脹を認めた。

【画像所見】 CT画像で左側下顎骨周囲から傍咽頭間隙、後咽頭隙、頬部皮下、頭側は側頭下窩から右側頭部皮下、尾側は頸部血管鞘から咽頭後間隙、甲状輪状軟骨を超え縦隔に至る極めて広範囲におよぶガス産生、膿瘍形成をきたしていた（図1,2）。



【診 断】 歯性頸部膿瘍および縦隔炎

【処置および経過】 著しい呼吸苦を訴えていたため、未明であったが緊急ドレナージ手術の施行が必要と判断した。経鼻ファイバーにて挿管後、当科にて両側頸部、左側側頭部を可能なかぎり解放、デブリードメントを行った。胸鎖乳突筋内部を開放すると悪臭を伴った漿液性の膿汁を多量に認めた。その後甲状腺を明示したのちに胸骨舌骨筋下面を切離し、甲状腺周囲を開放した。上方は顎下部から側咽頭隙、翼突下顎隙を開放、下顎枝外方から頬筋隙から側頭下窩に向かって開放した。ドレーンを多数留置し手術終了（図3,4）。その後頸部および側頭部は耳鼻咽喉科頭頸部外科にて連日の洗浄、およびデブリを行った。縦隔炎の管理は胸部外科へ依頼し保存療法で改善をみた。全身管理は救命救急部が担当し糖尿病および慢性腎不全の管理は内分泌内科、腎臓内科で行った。抗菌薬はMEPM 0.5g 2回/日を使用し、入院より20日後に軽快退院となった。



【考 察】 本症例は歯性感染症から継発した深頸部感染症および縦隔炎であった。基礎疾患に糖尿病、慢性腎不全を有しており易感染状態であった。深頸部感染症の起炎菌として好気性菌であれば連鎖球菌群の検出が多く、嫌気性菌出ればPeptostreptococcus属、Preotella属、Bacteroides属が多いとされており、多くは嫌気性主体の複合菌感染とされている。本症例もPreotella属、Peptostreptococcus属、Streptococcus属による混合感染であり、当初より抗菌薬は嫌気性菌による感染と抗菌力・スペクトルを考慮し、MEPMを使用した。

透析患者は免疫力が低下しており易感染状態であることはよく知られており本症例も基礎疾患によってこのような重症化をたどったものと思われる。

透析患者への薬物投与は非可逆的副作用の出現しやすい薬剤については血中動態を考慮し薬物治療モニタリング（TDM）によって投与設計され抗菌薬ではバンコマイシンが相当する。本例は幸いMRSAおよび多剤耐性菌感染症でなかったためMEPMの単独投与および膿瘍、壊死組織に対する早期の外科療法が奏功し救命し得た1例であった。重症感染症に対しては時期を逸することなく密度の濃い集学的治療を行うことが最も肝要であると改めて認識させられた。



## ホームページのご案内

当院では、公式ホームページを作成しております。  
毎月更新される外来担当医師一覧表や、各科の詳しい概要、懇話会のお知らせ、連携医一覧表など詳しく掲載しております。

お役に立てる情報もあるかと思しますので、ぜひご覧ください。

(アドレス <http://www.fuchu-hp.fuchu.tokyo.jp/>)



## 各種講習会・勉強会のご案内(患者さん向け)

※参加無料、事前予約不要です

### 糖尿病講習会 (会場：都立多摩総合医療センター講堂フォレスト)

- 「糖尿病神経障害」「フットケアについて」「食事の自己評価方法」

日時：平成24年3月14日(水) 午後2時から午後4時

当院は原則として、**紹介予約制**です。  
外来及びCT、MRI検査は必ず予約を取り、  
紹介状をお願い致します。

ご意見、ご投稿、お問い合わせは  
医療連携係(清水・戸田 内線2171)まで

#### <電話予約センター>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

TEL : 042-323-9200

#### <FAXによる診療予約>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

TEL : 042-323-9205

**緊急の場合…必ずご一報ください。**

可能な限り専門診療科をご指定の上、  
担当医にご連絡ください。

**東京都立多摩総合医療センター**

〒183-8524 東京都府中市武蔵台2-8-29  
TEL 042-323-5111(代表)

